

くろさわさだきち

在京雫石町友会 会員 **黒沢定吉**さん



心の支え—モロ会・駒ヶ岳—

私は橋場小学校で14名の仲間と複式学級で学んだ。少人数での学校生活は、自習時間が多かったり、野球などの球技で遊ぶのに三角ベースにしたり、いろいろな制約もあった。学校と農協（支所）を結んだ回線で電話の実習をしたことがある。初めて耳にあてた電話器はくすぐったい記憶がある。中学では学年が120名になり驚いたが、橋場小学校の仲間の結束は固く今でも交流が続いている。中学校時代は体操クラブ（同好会）を作り土橋幸男氏（商工会長）と一緒に頑張ったが結局部としては認めてもらえなかった。学校林での刈り払いや植林、学校で田植え～稲刈りをして米を供出したり、思い出も多いが一番嬉しかったことは、家庭の都合であきらめていた修学旅行（北海道）に父親が行かせてくれたことだ。兄は行けなかつただけにあのときの感激は今でも忘れられないし感謝している。

15才の時、中学校卒業と同時に集団就職で都会に夢をみて上京した。盛岡の桜木小学校に集合し、大勢の人（家族・親戚・仲間）に見送られての出発だった。食べる仕事ならどんな時代でも将来性があると思選んだ仕事は精米店。当時は米は配給米の時代で重要な仕事だった。米のご用聞き、精米、配達などをしたが、農家できたえた体力で30キロの米を自転車で配達するのに苦労はしなかつ

た。配達先の銭湯で親しくなり手伝うと無料で入浴もできた。また三助と言って背中を流す仕事もあった時代で、（女性）客の背中を流させてもらったこともある。当時は何も感じなかったが今思うと貴重な経験だった。

その後、兄の影響でクリーニング業に移り、技術を磨くために4、5店経験し技術を習得した。クリーニングの技術は今でも自信がある。そして「どんな社会変化があってもなくてはならない仕事」を追求し、たどりついたのが足場組み立ての専門会社だった。そこに就職して十分経験を重ねた結果、50才になって独立することができた。その後会社も順調に拡大し現在に至っている。

ふるさとで活躍している同級生には本当に感謝している。モロ会や祝い事の企画をしていつもあたたかく迎えてくれる。昔の仲間との歓談は絆が深まり心の糧となっている。またそれが楽しみで毎回出席する様にしている。私が想うふるさとの象徴は駒ヶ岳であり、春先の残雪で作られる駒の姿は忘れないし思い出すたびに勇気ももらえる。安栖に住む黒沢二美さんは私を育ててくれた恩人であり、ひとり暮らしを案じながらも、会うのを楽しみに時々帰省している。



26年度新春全体会議(前列左から3人目が筆者)



同級生との還暦祝い(2列目中央が筆者)

昭和18年生まれ。橋場小学校—御明神中学校—(就職)—戸田精米店—クリーニング店(4~5店経験し技術習得)—ホリー(株)—(株)東京ビケ足場—(株)両毛ビケ足場(代表取締役)。
現在はL&Rグループ7社の総帥。23歳で職場結婚。二女あり。